

プログラム第1日目:5月16日(土)

一般演題／□演	13:00～14:30	会場 A・大視聴覚室
---------	-------------	------------

●第1セッション「医療従事者の現在とこれから」

司会：宮本真巳（亀田医療大学）

1-1 複数の子供を育てる女性看護師の就業継続意欲に及ぼす要因の検討

—子育て支援の活用状況と継続意志に焦点を当てて—

○青木一美¹・小野展子¹・橘川麻希子¹・岡部明子²

（東海大学医学部附属病院看護学部¹・東海大学健康科学部看護学科²）

1-2 看護職の就業継続意向の関連要因の地域別検討

○佐藤みほ¹・渡邊生恵²・朝倉京子³

（東京医療保健大学¹・東北福祉大学²・東北大学³）

1-3 在宅医療に携わる医師における「まちづくり」の語り

○景山晶子¹・坂本文武²

（明治学院大学大学院社会学研究科博士後期課程¹・一般社団法人 Medical Studio²）

1-4 病院ボランティアの日加比較

○竹中 健（広島国際学院大学）

一般演題／□演	13:00～14:30	会場 B・182 教室
---------	-------------	-------------

●第2セッション「終末をどう迎えるか」

司会：朝倉隆司（東京学芸大学）

2-1 終末期の在宅医療に対する看護学生（1年次生）の考えの調査

○加藤博之（群馬医療福祉大学）

2-2 家族ニーズからみた在宅緩和ケアの課題

—自由回答データの分析から—

○板倉有紀¹・田代志門²

（東北大学¹・国立がん研究センター²）

2-3 死別体験者に支援的な地域コミュニティの形成の試み②

—活動の理論的枠組みの検討—

○山崎浩司（信州大学）

2-4 超高齢者の死亡場所の状況について

—高齢化が進展した地域の事例から—

○伊藤美樹子・大達 亮・城本友恵

(大阪大学医学系研究科保健学専攻)

一般演題／□演	13:00～14:30	会場 C・183 教室
---------	-------------	-------------

●第3セッション 「患者の意味世界」

司会：中村英代（日本大学）

3-1 〈精神疾患患者〉のセルフスティグマ

—ライフストーリー論の視座から見る、今日的なスティグマの様相—

○河村裕樹（日本学術振興会・一橋大学大学院）

3-2 中枢神経障害により複数の後遺症を含みもつ身体

—道具との関わりに着目して—

○坂井志織（首都大学東京人間健康科学研究科博士後期課程）

3-3 希少疾患と社会的困難

—当事者への聞き取り調査から—

○山中浩司・野島那津子・樋口麻里（大阪大学）

3-4 慢性疾患の患者会で提示されるライフスタイルと戦略

○佐川佳南枝（熊本保健科学大学）

シンポジウム	15:15～17:45	講堂
--------	-------------	----

この20年で医療はどう変化したか？—生活モデル／セルフケア／自己決定

司会：吉田澄恵（東京女子医科大学）

病院の世紀から地域包括ケアの時代へ

猪飼周平（一橋大学）

患者中心／セルフケアとは何だったのか

—移ろいゆく「基準」のなかで—

松繁卓哉（国立保健医療科学院）

死にゆく人々へのケアはどう変化したか

—分水嶺としての1990年—

田代志門（国立がん研究センター）

コメンテーター：美馬達哉（京都大学）・戸ヶ里泰典（放送大学）

一般演題／示説	13:00～13:35	会場 E・283 教室
---------	-------------	-------------

司会：木下康仁（立教大学）

P-1 「慢性の痛みの語り」データベース構築の試み

○佐藤幹代^{1, 2}・佐藤（佐久間）りか²・濱 雄亮³・高橋奈津子⁴・射場典子²
 （東海大学¹・NPO 法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン²・
 慶応義塾大学³・聖路加国際大学⁴）

P-2 がん免疫療法に関する研究結果の公表に関する文献研究

—がん患者の情報取得・治療選択を支援するために—
 ○大久保 豪（株式会社 BMS 横浜）

**P-3 障がい児の母親における養育過程の主観的経験と地域ソーシャルキャピタルがストレス
 対処力 SOC、GHQ ならびに肯定的変化（PPC）に及ぼす影響**

—口唇口蓋裂児の母親を対象として—
 ○大宮朋子¹・山崎喜比古²
 （東邦大学¹・日本福祉大学²）

P-4 ライフコースに専業主婦を選択した女性の自己認識

○小野智佐子¹・小山晶子²
 （東洋大学大学院博士後期課程，国際医療福祉大学¹・純心大学²）

P-5 日本の有料老人ホームにおける看護師の役割の現状

○小山晶子¹・小野智佐子²
 （純心大学¹・東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程²）

プログラム第2日目:5月17日(日)

一般演題／□演	9:00～10:30	会場 B・182 教室
---------	------------	-------------

●第4セッション「医療の現代史と現在」

司会：美馬達哉（京都大学）

4-1 戦前・戦中期日本の都市部における出産の施設化

—東京の低所得者向け産院、産院を前身とする病院における分娩取扱状況の分析—

○由井秀樹（立命館大学）

4-2 転換期にある助産師に求められる資質とは

○曲山さち子¹・余語琢磨²・渡部圭一³

（帝京平成大学¹・早稲田大学²・滋賀県立琵琶湖博物館³）

4-3 看護補助業務の派生と変遷からの一考察

—看護補助者活用に向けての課題—

○程塚京子（東洋大学大学院博士後期課程、日本医療科学大学）

4-4 難病対策要綱体制による難病医療費助成

—研究医の役割に関する歴史分析—

○渡部沙織（明治学院大学）

一般演題／□演	9:00～10:30	会場 C・183 教室
---------	------------	-------------

●第5セッション「社会・文化と医療」

司会：天田城介（中央大学）

5-1 現代社会がハラスメントの判断に及ぼす影響

○海野まゆこ（放送大学）

5-2 安心できる医療とは何か

○山縣弘子

5-3 石垣島のシャーマニズムと医師

○上野 彩（立教大学大学院社会学研究科）

5-4 アントノフスキー理論の医療社会学

—アロン・アントノフスキーとユダヤ思想について—

○池田光穂（大阪大学）

一般演題／□演	9:00～10:30	会場 D・282 教室
---------	------------	-------------

●第6セッション「患者の生活・健康・決定」

司会：栗岡幹英（奈良女子大学）

6-1 がん検診受診における自己決定の不在

—便潜血検査をめぐる人々の語りの分析から—

○佐藤（佐久間）りか¹・菅野摂子²・鷹田佳典^{1,3}

（NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン¹・電気通信大学²・早稲田大学³）

6-2 血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の生活困難度の推定（第四報）

—ICF（国際生活機能分類）に基づく生活支援要因の探索—

○久地井寿哉 □・柿沼章子 □・岩野友里 □・大平勝美 □

（社会福祉法人はばたき福祉事業団 □・公益財団法人エイズ予防財団 □）

6-3 MSM の HIV 陽性者での性行動と「こころの健康」との関連の検討

○井上洋士¹・戸ヶ里泰典¹・阿部桜子²・若林チヒロ³・板垣貴志⁴・

細川陸也⁵（放送大学¹・NTT docomo²・埼玉県立大学³・株式会社アクセライト⁴・京都大学大学院⁵）

6-4 HIV 陽性者の sense of coherence を規定する心理社会的経験

○戸ヶ里泰典¹・井上洋士¹・阿部桜子²・若林チヒロ³・板垣貴志⁴・細川陸也⁵

（放送大学¹・NTTdocomo²・埼玉県立大学³・アクセライト⁴・名古屋市立大学⁵）

一般演題／□演	9:00～10:30	会場 E・283 教室
---------	------------	-------------

●第7セッション「家族と病い・障がい・胎児」

司会：井口高志（奈良女子大学）

7-1 障がいに関わる家族の一考察

—ライフストーリー研究を通して—

○渡邊文春（松山大学大学院）

7-2 妊娠・出産した子を養子として託す理由

—特別養子縁組で養子として託した女性が認識する「責任」と胎児観—

○白井千晶（静岡大学）

7-3 新しい医学的知識と行為の可能性の変化

—遺伝性疾患としての多発性嚢胞腎に注目して—

○前田泰樹¹・西村ユミ²

(東海大学¹・首都大学東京²)

7-4 親から子への生体腎移植をめぐる家族の経験

—遺伝性疾患としての多発性嚢胞腎に注目して—

○西村ユミ¹・前田泰樹²

(首都大学東京¹・東海大学²)

教育講演	10:45～11:45	会場 A・大視聴覚室
------	-------------	------------

教育講演

人工呼吸器から見える医療/家庭/社会

大森 健 (IMI 首都圏ブロック)

司会：鷹田佳典 (早稲田大学)

RTD①	14:15～16:15	会場 B・182 教室
------	-------------	-------------

専門性を超えて“生活”を眼差す

企画者：細野知子・坂井志織・西村ユミ (首都大学東京大学院)

話題提供者：細野知子 (首都大学東京大学院)

話題提供者：池田 喬 (明治大学文学部)

話題提供者：浮ヶ谷幸代 (相模女子大学人間社会学部)

RTD②	14:15～16:15	会場 C・183 教室
------	-------------	-------------

看護の原点と可能性を問う—電子カルテと看護診断の導入がもたらした 20 年の変化—

企画者：野村亜由美 (首都大学東京)

話題提供者：鈴木和代 (兵庫県立大学)

話題提供者：嶋澤恭子 (神戸市看護大学)

RTD③	14:15～16:15	会場 D・282 教室
------	-------------	-------------

**医療コミュニケーションを経験的に研究する方法としての RIAS とエスノメソドロジー
ー日本の文脈の中で考え、研究実践例の検討も行うー**

企画者・司会者：檉田美雄（神戸市看護大学）

話題提供者：岡田光弘（成城大学）

話題提供者：石川ひろの（東京大学）

話題提供者：川島理恵（関西外国語大学）

話題提供者：黒嶋智美（日本学術振興会・千葉大学）

RTD④	14:15～16:15	会場 E・283 教室
------	-------------	-------------

これからの在宅ケアを考える ～北欧ケアの思想的基盤を手がかりにして～

企画者：備酒伸彦（神戸学院大学総合リハビリテーション学部）

話題提供者：是永かな子（高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門）

話題提供者：石黒 暢（大阪大学言語文化研究科）

話題提供者：山本大誠（神戸学院大学総合リハビリテーション学部）

話題提供者：竹之内裕文（静岡大学学術院農学領域）